

# あいち病害虫情報 最新情報

令和3年11月16日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 気温はほぼ平年並の見込み

名古屋地方気象台11月11日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されています。

## キャベツ、ハクサイの害虫

11月上旬のハクサイほ場の巡回調査では、コナガ幼虫の発生量は平年並の状況ですが、フェロモントラップにおけるコナガ成虫の誘殺数がやや多い地域があります。コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避けましょう。また、周辺ほ場への発生源とならないよう、収穫終了後は残渣を速やかにすき込みましょう。

野菜のフェロモントラップにおけるハスモンヨトウ成虫の誘殺数が多い状況です。11月上旬のハクサイほ場の巡回調査では、幼虫の寄生は確認されませんでした。今後の発生に注意し、卵塊や幼虫を確認したら速やかに取り除き、薬剤防除しましょう。

## キャベツ、ハクサイの病害

菌核病が発生する時期です。長久手市の露地キャベツほ場では、すでに菌核から子のう盤\*の形成を確認しており、胞子が飛散し始めていると考えられます。下葉に発病が確認されたら薬剤防除しましょう。また、発病株は直ちに抜き取ってほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。なお、本病の病原菌は多くの種類の植物に感染します。菌核病が発生した場合は、他作物での発生にも注意しましょう。

11月上旬の巡回調査において、ハクサイのべと病が一部ほ場で確認されました。ほ場での発生に注意し、発生初期に薬剤防除しましょう。薬剤散布は葉裏にも薬剤がかかるように丁寧に行いましょう。

\*子のう盤…直径5mm前後の小型のきのこ状の器官。子のう盤から胞子が飛散する。

## 果菜類の病害

トマトすすかび病やナスすす斑病の発生に引き続き注意しましょう。

果菜類の灰色かび病やトマト葉かび病、ナスすすかび病は、施設を密閉し施設内の湿度が高まる11月中下旬頃から発生が多くなります。積極的に換気や送風を行って、多湿にならないようにしましょう。また、発病部位は速やかに取り除き、適切に処分しましょう。

トマトでは、草勢が衰えると、葉かび病の発生が助長されます。生育に応じた肥培管理に努めましょう。葉かび病抵抗性品種を栽培している場合も、すすかび病は発生します。両病害とも発生初期の防除を心がけましょう。

## イチゴの病害虫

ハダニ類は、多発すると防除が難しくなります。ハダニ類の防除では、ミツバチや天敵への影響を考慮して薬剤を選定しましょう。気門封鎖型農薬を積極的に活用し、同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。天敵を利用する場合は、導入前に薬剤で防除し、ハダニ類の密度を下げてから放飼しましょう。

炭疽病は、10月下旬の巡回調査における発生量は平年並の状況でしたが、引き続き発生状況に注意しましょう。発病を確認したら発病株や隣接する株は速やかに抜き取って、ほ場外に持ち出し適切に処分しましょう。

うどんこ病は、多発すると防除が難しくなるので、初期防除に努めましょう。また、窒

素過多は発生を助長するので、適切に肥培管理しましょう。

### **トマト黄化葉巻病、トマト黄化病、キュウリ黄化えそ病**

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）はタバココナジラミ、トマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）はコナジラミ類、キュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）はミナミキイロアザミウマにより媒介されます。

10月下旬のトマトにおける巡回調査では、コナジラミ類の発生量が多く、トマト黄化葉巻病の発生量もやや多い状況でした。媒介昆虫の防除を徹底するとともに、発病株は抜き取り、適切に処分しましょう。コナジラミ類の防除対策については、11月1日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第11号」を参考にしてください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820